

主要普及成果の紹介

多収で穂発芽と縞萎縮病に強い二条大麦新品種「はるか二条」

【開発の背景】

九州地域は精麦用二条大麦の主産地で、主に焼酎・味噌醸造原料や麦飯用の押し麦等に利用されています。現在の主力品種「ニシノホシ」は品質が優れ、約7,000ha栽培されています。しかし、近年発生が拡大しているオオムギ縞萎縮病のⅢ型ウイルス系統に抵抗性を持たず、穂発芽しやすいこと、細粒（充実不足の粒）が発生しやすいこと等の欠点が明らかになってきています。そこで、「ニシノホシ」の欠点を改良した極多収の新品種「はるか二条」を育成しました。

【品種の特徴】

「はるか二条」の特性は表1のとおりで、「ニシノホシ」よりも出穂期、成熟期ともに2日程度早い極早生の二条大麦です。草丈は短くて倒伏に強く、穂数が多い品種です（写真1）。穀粒は大きくて充実がよく、収量で「ニシノホシ」よりも3割程度多収です（図1）。「ニシノホシ」よりも穂発芽しにくく、オオムギ縞萎縮ウイルスの主要な系統（Ⅰ～Ⅴ型）とうどんこ病に抵抗性をもち、赤かび病には「ニシノホシ」と同程度かやや劣ります。精麦（精白した麦粒）の品質は「ニシノホシ」と概ね同程度に優れます。

2012年に品種登録出願し、2013年には「二条大麦農林26号」として農林認定品種となりました。



図1 「はるか二条」の草姿
（筑後拠点所内圃場、2013年5月9日撮影）

【期待する活用場面】

「はるか二条」は春まき型の早生品種であり、温暖地から暖地の平坦地に適します。長崎県等で奨励品種として採用予定で、食用および焼酎醸造用として試作が始まっており、工場規模での麦焼酎への適性評価が予定されています。また、九州各県の奨励品種決定調査においても有望視されており、「ニシノホシ」に代わる食用および焼酎醸造用の主力品種として普及が期待されます。

整粒収量が極めて多く安定生産が可能な「はるか二条」の普及により、大麦作の収益向上と生産振興に貢献することを期待しています。

【水田作・園芸研究領域 塔野岡 卓司】

表1 「はるか二条」の特性(2008～11年度平均)

特性	はるか二条	ニシノホシ
出穂期(月/日)	3/31	4/2
成熟期(月/日)	5/14	5/16
稈長(cm)	83	87
穂数(本/m ²)	659	609
収量(kg/a)	62.3	51.2
整粒歩合(%)*	90.7	81.0
病害等抵抗性		
オオムギ縞萎縮病		
Ⅰ型	極強	極強
Ⅲ型	極強	弱
うどんこ病	極強	極強
赤かび病	やや強～中	やや強
倒伏	強	やや強
穂発芽	難～やや難	やや易
精麦品質(55%歩留搗精)		
搗精時間(秒)	655	649
精麦白度(%)	44.6	45.2
砕粒率(%)	5.5	4.3

*粒厚2.5mm以上の穀粒の割合

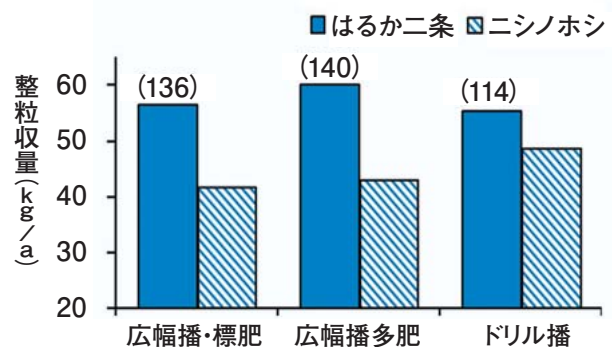


図1 「はるか二条」の整粒収量
広幅播は2008～11年度、ドリル播は2009～11年度の平均
()内はニシノホシに対する比率(%)